



本格的な秋の訪れに外あそびを楽しんでいる子どもたち。昼夜の気温差が大きい季節でもあるので、健康面には十分気を付けていきたいと思います。これから季節、お散歩などでどんぐりや落ち葉に触れることが増えてきます。色や音、手触りや匂いなどでも秋を感じていきたいですね。

★少しだけあげられる2歳児たち

お皿にいっぱい入った小麦粉粘土を、お皿ごと友だちに取られようしたら、もちろん力ずくで抵抗します。きっと、そんなけんかが絶えないはずです。しかし、お互いことばが使えるようになりはじめている子どもたち。お皿のなかの小さな塊を指さして、「それちょうどいい」と言わされたなら、不思議と気前よく分けてあげるではありませんか。今度は、分けてあげた子が、「それちょうどいい」と別の塊を欲しがりました。すると、今分けてもらった子は、それを気前よくあげられたのです。あんなに欲張りだった子どもたちなのに、なんで分け与えることができるようになったのでしょうか。それは、少しの粘土なら分けてあげても自分のつくった世界は、守ることができます。いっぱいもっているから、そのうちのひとつなら、自分の世界を崩すことにならないからです。なるほど、2歳になると、少しは冷静に、目前の世界をとらえることができはじめるのです。そこには、目前の世界をひとつの塊で見るのではなく、全体と部分、全体と要素、たくさんと少しという関係でとらえる認識の力が芽生えはじめ、部分なら、要素なら、少しだけ、相手に分けてあげることができるようになります。このような全体と部分、たくさんと少しなどの関係でとらえる力は、対比的認識とよばれています。対比的認識が芽生えたことによって、「少しだけ我慢できる」という自分をコントロールする力が現れ出てきたのです。しかし、この力は、まだ芽生えのときであり、自分の世界を守ろうとする心、欲張りという現実の生活なかで圧倒的に強いのです。だから貸してあげられない姿、分けてあげられない姿のほうが、おとなの目に映る時期でしょう。「〇〇ちゃんにも、あげたら」と言わわれれば、「いや!」、「あかん!」のことばが返ってくるはずです。だから、「何で分けてあげられないの」と叱られることばかりでしょう。

しかし、子どものなかには、確かにこの少しだけあげられる力が育ってきているのです。こんなとき、「何で分けてあげられないの」と言う前に、「この小さいひとつ、どうぞしてあげたら、〇〇ちゃんありがとうって言ってくれるよ」などと対比的認識の力で子どもが立ち戻れるようにしてあげましょうね。このような少しの我慢は、分け与える心だけではなく、少し待つことができる心にもなってくれます。すぐに食べたい食べたいと言っていたおやつでも、「先生がみんなのお皿に分け分けするまで待っててね」と言えば、それが少しの我慢で済む見通しがもてるゆえに、お皿に手をかけることなく、いただきますをいつしょにすることができます。

参考文献：『発達の扉・上』 著：白石正久

次回のめだか教室は…

めだか教室①…11月 11日 (火) 9:20～11:15 → さんぽをします

◎持つて来る物 シューズ・着替え・水筒・帽子 ○動きやすい服装・靴

めだか教室①…12月 9日 (火) 9:20～11:15 → せいさくをします

◎持つて来るもの：水筒・シューズ

めだか教室②…12月 23日 (火) 9:20～11:15 → せいさくをします

◎持つて来るもの：水筒・シューズ

※製作をするので、材料費 100円を持ってきてください。

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

『参加される皆様へ』～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。(おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 製作や クッキングの活動の時には材料費として100円頂きます。その都度、連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意してください(ジュースはご遠慮ください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください